

九州で急展開しているオルレ (ラットパス)に学ぶ

私たちが道内でフットパスの普及活動を本格的に始めてから十数年が経ちました。今では50の市町村に150のコースが出来ています。北海道は全国的に見てもフットパス先進地だったのです。ところがこの数年の間に九州でフットパスが急速に盛り上がりを見せるようになりました。フットパスとは歩く道を意味する英語でイギリスが発祥地であり、本場でもあります。森林や草原などの自然エリアのみならず田園地帯や市街地、川べりなどにできた道のことです。九州が北海道と大いに異なるのは、オルレと呼ばれる韓国型のフットパスを推進している点です。

韓国型フットパス、オルレ

韓国語のオルレという言葉の意味を知っている人は、まだ少ないでしょう。韓国本土の南の東シナ海に浮かぶ済州島^{チェジュド}の方言です。

本来は細道を意味するのだそうです。細道とは自宅と本通りを結ぶ道のことです。済州島は北方四島の国後島より少し大きい程度なのですが、島内を一周する総延長485kmのオルレが整備されているのです。いわば済州版フットパスです。全部で21コースと5つのオプションコースがあります。ほとんどが15~20kmで、長くても25kmくらいです。1日に1コース歩くとちょうど良い距離になっています。私たちは毎年冬にこの島を訪れ、過去5回で15コースまで歩いています。

海岸、丘陵、田園地帯のみならず、市街地やリゾート地の中にもコースが通っていて実に多彩です。標識やコースサインが分岐点などに設けられているのに加えて、目印となる青とオレンジのリボンが50~100m



小川 巖 (おがわ いわお)
エコ・ネットワーク代表

1945年松前町生まれ。北海道大学大学院農学研究科修了(動物生態学専攻)。北海道庁勤務を経て、84年野生生物情報センター設立。代表委員。92年エコ・ネットワーク代表。酪農学園大学教授を経て、現在に至る。重点テーマ：環境ボランティア、エコツアー、エコキャンプ、フットパス等。



済州島オルレの海岸沿いの道

間隔に吊り下げられているため、初めてであっても道を間違える心配はありません。それだけでなく、ありがたいことにトイレまでの距離を示す看板も要所にあります。

ではオルレは誰が考えて実行に移したのか、調べてみて驚きました。2007年にソ・ミョンスクさんという50代の女性が始めたというのです。行政はもちろんのこと、広範な民間の協力があつたからこそ短期間で整備できたと言えるでしょう。今では年間200万人がオルレを歩いています。9割は韓国人で1割が外国人だそうです。韓国では今日、アウトドアが大ブームになっています。オルレ歩きは代表的なメニューのひとつで、済州島の経済に貢献しています。

オルレで韓国人を呼び戻す九州

さてそのオルレが九州に上陸して活況を呈している実態は次のとおりです。

九州は韓国からほんのひとっ飛びの近さです。十年とかもっと前に遡ると、たくさんの観光客が押し寄せ、日本の家電製品などを買い漁っていたといいます。今起きている中国人による爆買いみたいな消費行動だったようです。しかしご存知のとおりサムスンやLGに取って代わられてしまい、家電製品をターゲットに九州を訪れる必要がなくなりました。では何を売りにして韓国人を呼び戻したらよいか、九州の人たちは知恵を絞った末にオルレの導入を思いついたのではないかと、以上は私の想像です。

九州観光推進機構のイニシアチブにより、まず九州7県に最低1コースを設定するところから始めまし

た。2012年、第1次コースとして熊本県の天草・松島コース(11.1km)など4コースが認定されました。2015年現在17コースがオープンしており、3年後までに目標の25コースをオープンさせる予定です。さらに九州を一周するオルレを完成させるべく、着々と前進していると言ってよいでしょう。

2012年3月から15年2月まで3年間に歩いた日本人は58,380人なのに対して、韓国人は倍の104,110人となって、年々増加傾向にあります。

歩くのは超スローな活動です。車なら1時間もしないで通過してしまう距離を半日~1日かけて歩くわけですから宿泊が伴います。それも何泊も。当然1回で全部を歩ききれませんから、気に入れば再訪するはず。リピーターにとって九州の魅力が徐々に伝わっていくことでしょう。そんな戦略を九州勢は描いているのです。

北海道らしさで世界のウォーカーを呼び込みたい

翻って北海道はどうでしょうか?もっともシンプルな歩く活動ですから投資額などわずかで済みます。それにもかかわらずウォーカーの滞在時間は飛躍的に長くなることは、済州島と九州の事例が証明しています。フットパスに関してはこの数年の間に九州勢に追い越されてしまったとはいうものの、北海道らしさを活かしたフットパスの展開を通じて、世界の人々に歩きに来てもらえるような活動へつなげていきたいと、秘策を練っているところです。いずれ九州を歩いた韓国人たちを北海道に引っ張ってくるなどはその一例です。現在、仲間と道内の隠れた宝を探しているところです。



済州島オルレのトイレまでの看板



開聞岳を望みながら歩く指宿オルレ(鹿児島県)